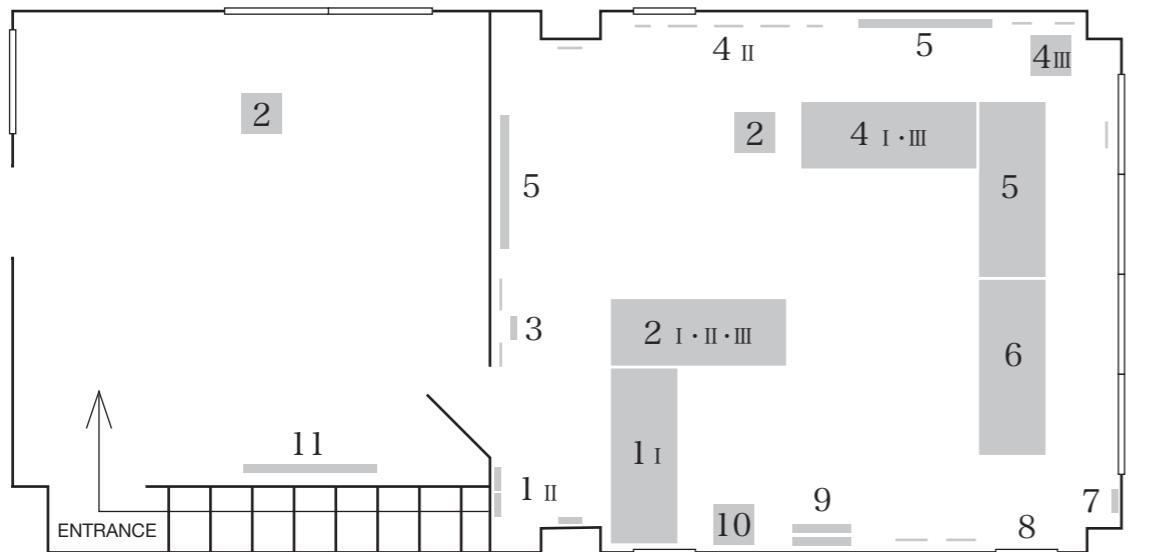


『Yesterday is Today's Tomorrow』 by Megumi Fukuda & Taro Furukata

Two-Person Show 福田恵、古堅太郎 2022年5月21日 - 28日（日曜休日）



1-I. 《クリンゴン式茶会用茶器》2018
福田恵
34.5 × 14 × 12.5, 34 × 13 × 12.5 cm
陶器、写真アーカイブ、本

1-II. 《無題 (クリンゴン式茶会用茶器のためのドローイング)》2018
各 36.5 × 44.5 cm
紙に水彩、額

2-I.
《透明な記念館一本殿と広島ピースセンター #1》
《透明な記念館一本殿と広島ピースセンター #2》
《透明な記念館一本殿と広島ピースセンター #3》
《透明な記念館一本殿と広島ピースセンター #4》
古堅太郎
UV レジン (ホワイト)、3D プリンター

2-II. 《平和のための原子力》2021
古堅太郎
7.9 × 14.4 × 10.3 cm
UV レジン (グレー、ホワイト)、3D プリンター

2-III. 《無題 (廣島とヒロシマを繋ぐリサーチ)》
on going
古堅太郎
サイズ可変
ハガキ、切手、写真、レコード

3. 《色が体の中をゆっくりと流れしていく (水川とシューンハイマー)》2016
古堅太郎
85 x 70 x 3 cm
アーティストの日常の食事を使って染めた布、Tシャツ用プリントペーパー、壁掛け

クリンゴン式茶会とは、スタートレックシリーズのワンシーンです。地球人とクリンゴン星人が、いづれかには毒（死）であるが、もう一方には崇高な文化である一杯の茶を共有します。本作は、そのシーンのための茶器として、開口部が2つあり、頭の中でかき回された茶（思想・思考）を他者と共有する儀式のための抹茶碗として制作しました。

今年からちょうど100年前にあたる1922年に、ドイツで翻訳出版された岡倉天心の「茶の本」を添えています。挿絵は、その当時抱かれていた日本のイメージでしょうか。この本は、茶に纏わる美学を通じて日本の文化を解説しながら、誤解の多かった西洋と東洋の異文化理解のために、アメリカで出版され、西欧を廻り、彼の死後に日本で翻訳出版されたものです。

「透明な記念館」は、実現されなかった大東亜建設忠靈神域計画の中心的な建物と平和資料館を3Dデータで再現し、それらを組み合わせて、3Dプリンターで出力した立体作品です。曖昧化された広島の記憶と平和記念公園の建築計画の起源に注目することで、戦中の「廣島」と戦後の「ヒロシマ」を結びつけ、戦後の理想的な平和を新たな角度から見つめなおす試みです。

「Atoms for Peace (平和のための原子力)」は、1953年のアメリカ大統領の演説です。冷戦の中で、原子力を平和のために利用しようという進歩的な内容でした。しかし、その裏で、アメリカは水爆の開発を進め、平和利用の名の下に西側諸国に核技術の提供を行いました。この作品は、兵器と平和の間に横たわる核技術の矛盾について再考を試みています。

戦後、広島は「ヒロシマ」として民主的な平和を象徴する場所となりました。その過程に注目し、忘れられた戦前の「廣島」と「ヒロシマ」を繋ぐリサーチを続けています。また、広島をアメリカと東アジアの文脈の中に再配置することを試みています。

作品シリーズ「色がゆっくりと体の中を流れていく」は、「テセウスの船」にインスピレーションを受けながら「分子レベルでの身体の代謝」と「異なる文化での社会参加を通じておこる考え方や振る舞い、知識などの変化」を重ね合わせています。日々の食事の一部や料理の際にできる野菜や果物などの皮や切れ端などを使って絵の具や染料をつくり、衣類を着色します。食材のカラフルな色は、食事の摂取によっておこる分子レベルでの身体の代謝を表しています。また、衣類にプリントされた写真や模様は、陶芸家である祖父の焼き物やルドルフ・シェーンハイマーの論文、ミトコンドリアなど、生命科学と個人的な歴史に関係しています。

4. 《産前・産後記録》2017～
福田恵

作品タイトルは、アメリカの作家メアリー・ケリーが1976年に発表した作品『Post-Partum Document (産後記録)』を引用しています。その作品は、息子の摂取した食物を記録し、排泄物のついでオムツを作品としたものです。そこには、70年代のアメリカ社会で、女性に強いられる様々な家庭の仕事の一つとして育児という労働を通じ、男女間不平等性への批判的な眼差しが反映されています。

彼女の作品に触れる中で、私は、出産や育児を直接的なテーマとする作品が世の中に殆ど見当たらないことに気付き、その理由に关心を抱いています。現代日本においての実記録とは？本作は、国内外での不妊治療や、出産育児と仕事の関係、それらにまつわる様々な制度の枠組み、恩恵または暴力性など、生命体への愛情や情緒といった感情と共に、段階的に経た、言語化しきれない（あるいはそもそも対応しない）様々な経験を元に、2017年から取り組んでいる作品シリーズです。

生命体の最も初期の段階が、このように可視化されることへの特殊性から、治療で得られる画像データを医師から譲り受け受精卵を転写したものです。通常、印刷はフラットな紙媒体に施されます。本作も紙ではあるけれど、紙粘土を成形して土台とし、立体物や様々なメディアに印刷することが可能な照射印刷によって転写されています。先端技術がもたらす未知数の可能性と、その非万能性について考察した作品です。

ご近所の有機農家や父母の家庭菜園、野山など、私の生活圏内で収穫され、流通という枠組みの外側に存在する様々な生命体を撮影したものです。彼らは「規格外」の存在ですが、そのことが却って、スーパーで等しく揃った数多の果実達も実はそれが唯一的な個体である、ということを表明しているかのように感じます。

今回は、42枚セットの中から一部を出品しています。不妊治療や高齢出産で誰もが経験する生命の選別という難しい課題から着想し、イメージや枚数を決定しています。

4-I. 《萌芽》
UV プリント、紙粘土
4-II. 《浮遊する果実》
ピグメントプリント、額
4-III. 《産後記録 - vol.1 授乳夜想曲》
サイズ可変
音 (12分32秒・ループ再生)、ヘッドフォン、
楽譜など

5. 《永遠の庭 (よそ者として、ベルリン)》
2006 - 2007
福田恵
サイズ可変
写真によるアーカイブ

6. 《永遠の庭 (祖父母の肖像として、広島)》
2003 - 2004
福田恵
サイズ可変
写真によるアーカイブ

7. 《松かさを待つ》2009
古堅太郎
35 x 35 x 3 cm、80 x 7 x 7 cm
写真、額、パフォーマンスに使用したバット

8. 《J.L. と溶けたロープ #1》2016
古堅太郎
29 x 23.5 x 4.5 cm
陶版、シーグラス、陶片、石、貝

9. 《Nobody Knew》2008
古堅太郎
各 60.5 x 60.5 x 2.3 cm
1945年用のドイツ製スケジュール帳を撮影した2枚のカラー写真、額

育児日記から、子供のケアに関する時間記録を音符に置き換え、楽譜を作り、それを演奏するという作品です。産後鬱の初期症状と診断されたことから、育児という労働と創造的行為を結ぼうと試みました。本作では、2・3時間毎に数ヶ月間繰り返される授乳時間（本作では夜間のみ）で構成し、ピアノで演奏しています。

移住先で、新しい土地との関係を築くための方法として行った作品です。造花を持って移動し、植える様子はパフォーマンスでもあり、当時、大学で学んでいた表現手法を取り入れました。そして、写真による場所や記憶のアーカイブでもあります。戦争と東西統合の歴史に関係し、ベルリンにはまだ多くの空き地がありました。姿を変えてゆく空き地を、塗り替えられていく記憶や歴史と重ね、めまぐるしく変化する都市風景を、1年間を通して観察しながら写真で撮った記録です。

植物技師を生業としていた祖父は、植物栽培や品種改良の指導を行い広島県内を転々としました。祖父が撮影した写真には、ようやく構えた終の住処、自然農法による田畠、季節の庭、自慢の菊栽培、大切に育てる果樹などの田園風景が残っています。

祖父の死から10年後、荒廃の進む庭に、私は造花を植えました。とても良く擬態している造花は、根を張ることもなければ土に還ることもできません。それは、自然物が他の何者かによって急速に置き換えられている私たちの時代のアリアリティーを強烈に象徴していると感じました。四季を通じて常に変化する庭と、変わらない造花がどのように同居しうるのか。あるいは不可能か。1年間を通して、庭の様子を観察しながら写真で撮った記録です。

松の木の下で、松の実が自然に落ちてくるのを待って、バットで打つパフォーマンスです。毎回、どれくらいの時間待てば良いのか、誰にも分かりません。全く落ちてこない可能性もあります。偶然と必然、重力を始めとする自然の摂理を可視可せざることがテーマとなっています。

フランスの精神科医であり哲学者であるジャック・ラカンは1975年のセミナーで「ボロメアンリング」について執拗に考察しています。これは絡みあつた3つのリングのうち1つを切ると残りの2つもバラバラになってしまうという特殊な構造のリングで、成長とともに変化する自己認識の思考モデルとして使われています。浜辺で拾ったロープやシーグラスで作られた「ボロメアンリング」は、周りの環境によって形を変える現代的な身体のイメージを象徴しています。

1945年は、第二次世界大戦の終わった年として、世界史に記録されていますが、1944年まで、あるいは、終戦のその日を迎えるまで、誰も1945年が終戦の年になるとは予想できなかったはずです。44年製の手帳には、ヒットラーの誕生日や、「戦時のため、祝日を日曜日に振り替える」等と記されており、まるで、1945年も戦争が続いているような錯覚を受けます。私は、手帳の中から、ドイツの終戦の日付があるページと、日本の終戦の日付があるページを撮影しました。この二つのページは、予想と現実のズレを象徴的に表しています。

10.《一日は、朝陽と共に始まり、夕陽と共に終わる》

2012 - 2022

福田惠

23分50秒（ループ再生）

ビデオと冊子によるアーカイブ

2011年の福島第一原発事故は、原子力発電所と核爆弾との同一性を明らかにしました。そのことは衝撃的な出来事でした。現代的な生活を送る私たちの日常は、多くの電化製品に囲まれています。私の日常とその事故とが繋がり、核の否定という強い平和教育を受けてきたにも関わらず、原子力発電所のさらなる増設を無自覚に助長していることを実感したからです。

この作品は、日常廃棄物と太陽光によるインスタレーション作品で、考え、話すための場の創出を目的としています。独自のシステムからバッテリーを使用せず、その日その時に太陽が作り出すことのできるエネルギーのみを反映します。雨曇りでは光は明滅し、夕方には一日を終え、太陽と共にあった古来の人の暮らしのように稼働します。

ビデオアーカイブの内容：

ミュンクス教会（ザルツウエーデル、ドイツ）
2013年4月12日 - 5月28日

畦地亜耶加によるダンスパフォーマンス
文筆家ダイアナ・ココット教室の生徒達によるリーディングパフォーマンス
2013年5月28日

スタジオクラ（糸島、福岡）
2014年10月11日 - 19日

クンストラウム・クロイツベルグ / ベタニエン（ベルリン）
2013年4月12日 - 5月28日

寶藏巖（台北、台湾）
2016年9月3日 - 10月16日

東広島市立美術館（東広島）
2017年2月10日 - 3月19日

ペントン美術館（クレアモント、カリフォルニア、アメリカ）
2022年2月12日 - 6月25日

11.《平和のための原子力》2022

吉堅太郎

24分58秒（ループ再生）

シングルチャンネルHDビデオ、サウンド、液晶モニター、ヘッドフォン

「Atoms for Peace（平和のための原子力利用）」は、1953年のアメリカ大統領の演説です。冷戦の中で、原子力を平和のために利用しようという進歩的な内容でした。しかし、その裏で、アメリカは水爆の開発を進め、平和利用の名の下に西側諸国に核技術の提供を行いました。この作品は、兵器と平和の間に横たわる核技術の矛盾について再考を試みています。



こちらからダウンロードして頂けます